

シラバス(年間指導計画と評価) 教科名 理科

科目名	単位数	学年	使用教科書	使用副教材
生物	5	3 普通科 (理系)	高等学校 生物(第一学習者)	七訂版スクエア最新図説生物neo (第一学習社) セミナー 生物基礎+生物 (第一学習社)

学習目標	生物や生物現象についての観察、実験や課題研究を行い、自然に対する関心や探究心を高め、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。		
学習方法 宅習の仕方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した内容については、日々課題や週末課題、問題集などに取り組むことによって、随時確認することを心がけましょう。</li> <li>・演習の時期には、授業時間に取り扱った様以外にも、自ら弱点を補うべく、寸暇を惜しんで学習するようにしましょう。覚えなければならぬことが膨大にあります。また、覚えなければ正しい理解をすることができません。できるだけ早く取り掛かるようにしましょう。</li> <li>・覚えるだけでは入試には対応できません。実験結果のグラフや表、図を正しく読み取る力が必要とされます。実験の問題が出された場合は、簡単に解答を見るのではなく、一度自分の力で読み取る努力を行きましょう。</li> </ul>		
観点別評価の基準	興味・関心 意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物現象に興味を持ち、深く理解しようとする意欲を持っている。</li> <li>・課題に真面目に取り組み、学んだ内容の確認を怠らない。</li> </ul>	
	思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験結果や提示されたグラフ・表より、複雑な生命現象を正しく読み取ることができる。</li> </ul>	
	表現・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験や実習の手順をよく理解し、手際よく進めることができる。</li> <li>・実験や実習の結果を整理してレポートにまとめることができる。</li> </ul>	
	知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物現象に関する基礎的な知識を身に付けており、生命現象の概要を理解している。</li> </ul>	
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間考査・期末考査とも100点満点で作問する。</li> <li>・1学期末、2学期末の評点は定期考査の点数を70点満点に換算し、平常点を30点満点加え100点満点とする。</li> <li>・平常点の内訳は授業プリントの提出状況及び各課題テストで10点満点、作業プリント・レポートなどの達成状況・課題・宿題の提出状況で10点満点、出席状況・忘れ物・発表状況などで10点満点で算出する。</li> <li>・学年末の評点は1学期末の評点、2学期末の評点により100点満点で算出し、それに基づき5段階評価で評価する。</li> </ul>		

学期	単元名	実施時期	考查範囲	学習内容 (単元・章・項)	学習のねらい・方法	観点別評価				
						A	B	C	D	
1 学期	第2・3・4章	4月	中間 考查	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遺伝子の単離と増幅</li> <li>・遺伝子の構造や発現を解析する方法</li> <li>・遺伝子の機能を解析する方法</li> <li>・人間生活への応用</li> <li>・遺伝子を扱う際の課題</li> <li>・刺激の受容と反応</li> <li>・神経系とニューロン</li> <li>・ニューロンによる電気的な信号の生成とそれを伝えるしくみ</li> <li>・受容器</li> <li>・中枢神経系の構造と反応</li> <li>・効果器</li> <li>・動物の行動</li> <li>・生得的行動</li> <li>・習得的行動と学習</li> <li>・植物の刺激の受容と情報伝達</li> <li>・被子植物の受精と胚発生</li> <li>・種子の発芽と光環境</li> <li>・植物の環境応答と成長</li> </ul>		○	◎	○	◎	
		5月				期末 考查	6月	○	◎	○
		7月	○				◎	○	◎	
		8月	中間 考查			<ul style="list-style-type: none"> <li>・個体群とその成長</li> <li>・個体群の変動と維持</li> <li>・個体群内の相互作用</li> <li>・個体群間の相互作用</li> <li>・多様な種が共存するしくみ</li> <li>・生態系と生物多様性</li> <li>・人間生活と生態系の変化</li> <li>・生物多様性の保全とその意義</li> </ul>		○	○	○
9月	期末 考查	10月		◎	◎			◎	○	
11月		記述型演習・マーク型演習		基本的には記述型演習を通して応用力を強化していきますが、マーク演習も交えてセンター試験対策も行います。	◎			◎	◎	○
12月	◎		◎		◎			○		
3 学期	演習	1月	二次試験対策	知識・理解だけにとどまらず、実験結果からの考察や論述問題に多く取り組み、応用力を強化していきます。		○	◎	◎	◎	
		2月				○	◎	◎	◎	
		3月				○	◎	◎	◎	
観点別評価について				A;興味・関心・意欲・態度 B;思考・判断 C;表現・技能 D;知識・理解 ◎;特に重視するもの ○;重視するもの						

シラバス(年間指導計画と評価) 教科名 理数 科

科目名	単位数	学年	使用教科書	使用副教材
理数生物	5	3 MS (理系)	高等学校 生物(第一学習者)	七訂版スクエア最新図説生物 (第一学習社) セミナー 生物基礎+生物 (第一学習社)

学習目標	生物や生物現象についての観察、実験や課題研究を行い、自然に対する関心や探究心を高め、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。		
学習方法 宅習の仕方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した内容については、日々課題や週末課題、問題集などに取り組むことによって、随時確認することを心がけましょう。</li> <li>・演習の時期には、授業時間に取り扱った様以外にも、自ら弱点を補うべく、寸暇を惜しんで学習するようにしましょう。覚えなければならぬことが膨大にあります。また、覚えなければ正しい理解をすることができません。できるだけ早く取り掛かるようにしましょう。</li> <li>・覚えるだけでは入試には対応できません。実験結果のグラフや表、図を正しく読み取る力が必要とされます。実験の問題が出された場合は、簡単に解答を見るのではなく、一度自分の力で読み取る努力を行きましょう。</li> </ul>		
観点別評価の基準	興味・関心 意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物現象に興味を持ち、深く理解しようとする意欲を持っている。</li> <li>・課題に真面目に取り組み、学んだ内容の確認を怠らない。</li> </ul>	
	思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験結果や提示されたグラフ・表より、複雑な生命現象を正しく読み取ることができる。</li> </ul>	
	表現・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験や実習の手順をよく理解し、手際よく進めることができる。</li> <li>・実験や実習の結果を整理してレポートにまとめることができる。</li> </ul>	
	知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物現象に関する基礎的な知識を身に付けており、生命現象の概要を理解している。</li> </ul>	
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間考査・期末考査とも100点満点で作問する。</li> <li>・1学期末、2学期末の評点は定期考査の点数を70点満点に換算し、平常点を30点満点加え100点満点とする。</li> <li>・平常点の内訳は授業プリントの提出状況及び各課題テストで10点満点、作業プリント・レポートなどの達成状況・課題・宿題の提出状況で10点満点、出席状況・忘れ物・発表状況などで10点満点で算出する。</li> <li>・学年末の評点は1学期末の評点、2学期末の評点により100点満点で算出し、それに基づき5段階評価で評価する。</li> </ul>		

学期	単元名	実施時期	考查範囲	学習内容 (単元・章・項)	学習のねらい・方法	観点別評価				
						A	B	C	D	
1 学 期	第3・4・5編	4月	中間 考查				○	◎	○	◎
		5月								
		6月	期 末 考 査							
		7月								
2 学 期	第3・4章	8月	中 間 考 査	総復習及び問題演習	これまでに履修した内容を基本問題を通して振り返ります。また、マーク演習、記述演習を通して応用力を高めていきます。		○	○	○	◎
		9月								
		10月								
	第7章・演習	11月	期 末 考 査	記述型演習・マーク型演習	基本的には記述型演習を通して応用力を強化していきますが、マーク演習も交えてセンター試験対策も行います。		◎	◎	◎	○
		12月								
		1月								
3 学 期	演習	1月	二 次 試 験 対 策		応用的な内容を限られた時間内で正確に解くための要領をスピードを育成していきましょう。		○	◎	○	◎
		2月								
		3月								
観点別評価 について				A;興味・関心・意欲・態度 B;思考・判断 C;表現・技能 D;知識・理解 ◎;特に重視するもの ○;重視するもの						